掲示板のことば

どの草花にも
必ずそこで
生きる
理由がある

朝ドラ『らんまん』より　槙野万太郎

２０２３．０７

２ヶ月続きますが、朝ドラ『らんまん』からの言葉です。

この言葉は、幕末の上野戦争で生き残った侍崩れの倉木という男が、挫折を抱え自らを雑草に置き換え、「**なぜ雑草に金を払う？　誰の目にも入らねぇ。入ったとて、疎まれ、踏みにじられ・・・。踏みにじったことも誰も覚えてねぇ。雑草なんか生えててもしょうがねえだろうが**」と万太郎に言った時、万太郎は「**雑草いう草はないき。必ず名がある！**」と言い「**わしは信じちゅうき。どの草花にも必ずそこで生きる理由がある。必ず！**」と言ったのです。

不思議なものです。我が家の玄関前の石の間から「雑草」らしきものが生えていたのですが、なんだかお花が綺麗で、検索してみたところ、「オニタビラコ」という名前のお花でした。名前を知ってしまったら、雑草とは思えないのですね。もう、抜けません。そこで、先の万太郎の言葉を思い出しました。名を知るということは、いのちの意味を知ることなのです。そこで生きる理由を知るのです。

このドラマのモデルである、「日本の植物学の父」と言われた牧野富太郎さんは、多数の新種を発見し、名前を付けられました。「雑草という草は無い」という言葉は、牧野富太郎さんの言葉として遺されているようです。

私たち一人ひとりにも名前があります。名を持ったかけがえのないいのちには、その全てに、必ず「いま、ここ」に生きる意味があるのです。

真宗大谷派　光明寺住職　小林尚樹